

NKお薬手帳

病院の処方箋での薬は、70歳未満で平均2.7種類、70歳以上で3.5種類の薬を飲んでいると統計ででております。加齢とともに慢性病が増えて行くのは現実です。ということでたくさんの薬を飲むことになります。

そこで注意しなければならないのは、どうしても長期に渡って飲まなければならないことと、薬どうしの飲み合わせ(相互作用)です。2種類以上のいっしょに飲むと他の薬の作用を消して効かなくなったり、逆に効き目を強くしたりすることがあります。まして、複数の医療機関を利用する場合は最も注意が必要です。

この場合役に立つのが、処方箋をご自身が決めた「かかりつけ薬局」で調剤し、薬剤師に相互作用の有無を見つけてもらうことです。見つかった場合の対応は薬剤師が行ないます。

次に役立つのが薬局で発行した「お薬手帳」があります。それには、飲んでいる薬の名前などがのっていますので、診療を受ける場合は「お薬手帳」を医師に提示し今後の治療に役立ててもらいましょう。